## 福祉用具ヒヤリハット 研修教材 (講師用)

Case: 154

誤ってリクライニングレバーを握ってしまい、転倒しそうになる

## 場面の説明

ブレーキをかけようとしたが、誤って近くに付いていたリクライニングレバーを操作してしまった



利用シーン	<b>為</b> 移動
	外出
主な利用場所	玄関
	段差・縁石
介護保険の種目	● 車いす
分類コード (CCTA95)	122190 (姿勢変換機能付き車いす)
介護テクノロジー	_
二次元バーコード	

## 解説

リクライニングやティルト機構の付いた車いすでは、経験した人も多いのではないでしょうか。このような機能の操作レバーがブレーキの操作レバーと似ていることが混乱の原因です。形状や色を変えることで、間違いを防ぐ対策をしている車いすもありますが、判別しづらい機種もあり、利用者側でわかり易いマークをつけておくなどの工夫をすることもヒヤリ・ハット防止には役立つでしょう。

## 参考要因(要因の例であり、これだけが正解ということではありません)

人:操作に慣れていなかった

モノ:操作レバーが同じ箇所にたくさんついておりわかりづらい